

第3回「あん摩マッサージ指圧師、はり師及びきゅう師
免許取得者の進路状況アンケート調査」
(平成18年10月実施)

報 告 書
(要約版)



平成19年3月



社団法人 東洋療法学校協会

刊行にあたり

このたび、第3回『あん摩マッサージ指圧師、はり師及びきゅう師免許取得者の進路状況アンケート調査報告書』を刊行するはこびとなりました。

本学校協会では、調査研究事業の一つとして、国家試験免許となった平成4年度以降において、あはき師養成校を卒業して免許を取得された方々が、どのような進路を選ばれ、社会的な活動に従事されているか等について調査してまいりました。卒業生諸氏の実態を把握することにより、今後における本学校協会の目指すべき有効な事業の計画に役立てていくことをはじめ、業界や各学会の期待にこたえていく基礎的な資料に供することを主眼としております。

また、この調査は、現今の厳しい社会情勢下において、会員校に対して有益な情報を提供することも目的としており、平成8年度の第1回調査（平成4年度～平成7年度卒業生対象）に始まり、平成13年度の第2回調査（平成8年度～平成12年度卒業生対象）、そして5年を経た今年度で第3回目の調査（平成13年度～平成17年度卒業生対象）となりました。

特に今回の調査では、従前の調査項目に「養成施設の種類」を追加し、あん摩マッサージ指圧師、はりきゅう師等の養成課程別の状況についても分析していただけるものと存じますので、会員校におかれましては、本調査の結果を自校の運営や教育の充実に大いにご活用いただきたいと思っております。また、本学校協会では、関係学会への入会状況並びに業界団体への加入状況についても、今後の活動を展開するうえで大きな指針となるものであることから、調査結果を分析し、極めて少ない状況にある入会・加入の問題など憂慮される事項については、関係団体とも連携を図りながら対処し、斯界の発展はもとより、質の高い医療人の育成に寄与してまいりたいと存じます。

なお、今回の調査結果については、本学校協会のホームページ上でも公表し、広く情報を発信してまいります。

最後となりましたが、今回の調査にあたりましてご労苦をお掛けいたしました企画調整部の先生方に深く感謝申し上げますとともに、調査の実施に多大なるご理解とご協力を賜りました各会員校の皆様方に心から厚く御礼申し上げます。

平成19年3月

社団法人 東洋療法学校協会
会長 谷口和久

目 次

刊行にあたり 社団法人東洋療法学校協会
会長 谷 口 和 久

	頁
第1編 調査の概要	1
第2編 調査結果	2
1. 調査対象者数と回答者数	2
2. 調査結果の分析	3
(1) 回答者の選択課程分布	3
(2) 回答者の性別分布	4
(3) 免許の種別	5
(4) 免許の試験合格年次	6
(5) 実務に従事の有無	8
(6) 実務に従事していない理由	10
(7) 開設・勤務状況	11
(8) 開設している施術所の種別	12
(9) 勤務先の種別	13
(10) 報酬または給与	14
(11) 取扱患者の主な症状	17
(12) 学会等の入会状況	18
(13) 業界団体の加入状況	20

第1編 調査の概要

1. 調査の目的

あん摩マッサージ指圧師、はり師及びきゅう師等に関する法律（昭和22年12月20日法律第217号）の一部を改正する法律（昭和63年5月31日法律第71号）の施行に伴う新制度における学校・養成施設の卒業生が、国家試験に合格し、免許取得後どのような進路をとり、就職活動及び社会活動の場を選択しているか、平成8年10月実施の第1回調査、平成13年10月実施の第2回調査以降の状況について今回第3回目の実態調査を行い、今後の学校教育・学校経営に資する基礎資料を得ることを目的とした。

2. 調査の対象及び調査客体

本調査は社団法人東洋学校協会加盟の会員校卒業生で、平成14年から平成18年までの国家試験に合格し、あん摩マッサージ指圧師、はり師及びきゅう師の免許を取得した者（約12,000名）を調査対象とし、転居先不明者等を除き、確認のできた者を調査客体とした。

3. 調査の実施方法

本調査は、当学校協会加盟校のうち該当者のある会員校において、予め名簿（卒業年次ごとの氏名、住所など）を作成し、その名簿に基づき、当該学校から各々の対象者宛に調査票を郵送して実施した。

4. 調査の実施期日及び調査票提出日

本調査の実施日は平成18年10月1日とし、調査票の提出は平成18年10月12日までとして返信用封筒により調査票の回収を行った。

5. 調査票及び同記入要領

資料編に添付のあん摩マッサージ指圧師、はり師及びきゅう師免許取得者の進路状況アンケート票及び同記入要領のとおりである。

6. 調査及び集計・分析委託機関

この調査の企画立案は、社団法人東洋療法学校協会企画調整部と事務局が担当した。なお、調査票の集計・分析はLLP日本エイジングセンターに委託した。

第2編 調査結果

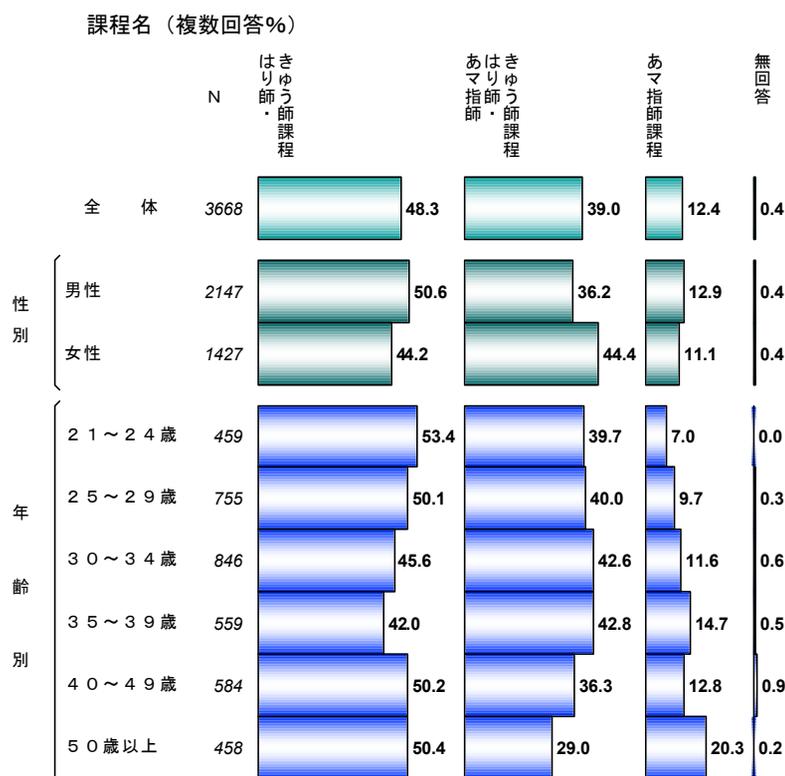
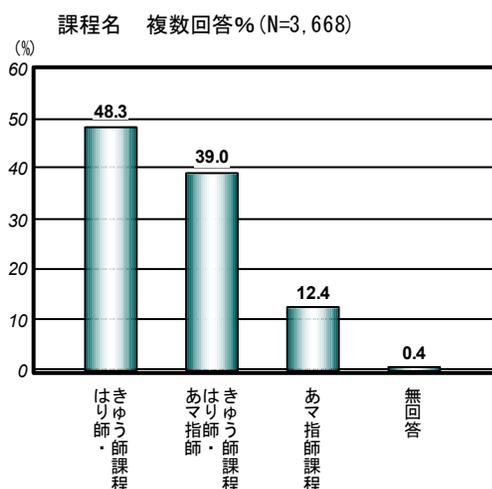
1. 調査対象者数と回答者数

調査対象者数は、実際に対象者宛の調査票送付が12,023件であった。転居先不明などの返戻分540件を除き、調査客体数は11,483件となり、回答数は3,668件（回答率32%）であった。

学校名	調査対象者 (A)	転出先不明者数		調査 客対数 (C) (A)-(B)	協力回答者数		無回答者数		備考
		実数(B)	百分比 (B/A)		実数(D)	百分比 (D/C)	実数(E)	百分比 (E/C)	
1 北海道鍼灸専門学校	215	21	0.10	194	89	0.46	105	0.54	
2 赤門鍼灸柔整専門学校	375	18	0.05	357	100	0.28	257	0.72	
3 国際メディカルテクノロジー専門学校	27	0	0.00	27	12	0.44	15	0.56	
4 埼玉東洋医療専門学校	289	8	0.03	281	70	0.25	211	0.75	
5 大川学園医療福祉専門学校	21	0	0.00	21	4	0.19	17	0.81	
6 東京医療専門学校	1,028	6	0.01	1,022	346	0.34	676	0.66	
7 東洋鍼灸専門学校	421	33	0.08	388	125	0.32	263	0.68	
8 早稲田医療専門学校	461	26	0.06	435	146	0.34	289	0.66	
9 東京医療福祉専門学校	473	21	0.04	452	125	0.28	327	0.72	
10 東京衛生学園専門学校	260	14	0.05	246	96	0.39	150	0.61	
11 日本鍼灸理療専門学校	837	41	0.05	796	225	0.28	571	0.72	
12 長生学園	542	23	0.04	519	173	0.33	346	0.67	
13 日本指圧専門学校	579	13	0.02	566	171	0.30	395	0.70	
14 国際鍼灸専門学校	390	13	0.03	377	137	0.36	240	0.64	
15 両国柔整鍼灸専門学校	211	7	0.03	204	62	0.30	142	0.70	
16 中央医療学園専門学校	155	22	0.14	133	41	0.31	92	0.69	
17 日本医学柔整鍼灸専門学校	38	0	0.00	38	14	0.37	24	0.63	
18 日本健康医療専門学校	67	1	0.01	66	19	0.29	47	0.71	
19 東京スポーツ・レクリエーション専門学校	35	1	0.03	34	2	0.06	32	0.94	
20 新宿鍼灸柔整専門学校	0	-	-	-	-	-	-	-	該当者なし
21 日本工学院八王子専門学校	65	5	0.08	60	21	0.35	39	0.65	
22 関東鍼灸専門学校	193	6	0.03	187	59	0.32	128	0.68	
23 湘南医療福祉専門学校	212	26	0.12	186	51	0.27	135	0.73	
24 呉竹鍼灸柔整専門学校	361	8	0.02	353	107	0.30	246	0.70	
25 神奈川衛生学園専門学校	357	1	0.00	356	124	0.35	232	0.65	
26 新潟リハビリテーション専門学校	90	9	0.10	81	15	0.19	66	0.81	
27 東海医療学園専門学校	255	5	0.02	250	97	0.39	153	0.61	
28 専門学校浜松医療学院	154	5	0.03	149	41	0.28	108	0.72	
29 名古屋鍼灸学校	153	8	0.05	145	63	0.43	82	0.57	
30 中和医療専門学校	463	5	0.01	458	130	0.28	328	0.72	
31 仏眼鍼灸理療学校	317	18	0.06	299	119	0.40	180	0.60	
32 行岡鍼灸専門学校	361	39	0.11	322	117	0.36	205	0.64	
33 明治東洋医学院専門学校	745	45	0.06	700	191	0.27	509	0.73	
34 関西医療学園専門学校	262	8	0.03	254	88	0.35	166	0.65	
35 森/宮医療学園専門学校	435	20	0.05	415	106	0.26	309	0.74	
36 藤正社学園 コミュニティスポーツ専門学校	72	0	0.00	72	24	0.33	48	0.67	
37 兵庫鍼灸専門学校	119	3	0.03	116	41	0.35	75	0.65	
38 広島聖光学園	51	0	0.00	51	26	0.51	25	0.49	
39 IGL医療専門学校	142	17	0.12	125	43	0.34	82	0.66	
40 四国医療専門学校	346	13	0.04	333	113	0.34	220	0.66	
41 鹿児島鍼灸専門学校	249	9	0.04	240	80	0.33	160	0.67	
42 福岡柔道整復専門学校	197	22	0.11	175	55	0.31	120	0.69	
42校	12,023	540	0.04	11,483	3,668	0.32	7,815	0.68	調査対象 41校

2. 調査結果の分析

(1) 回答者の選択課程分布



全体では、「はり師・きゅう師課程」が48.3%と最も多く、ついで「あま指師、はり師・きゅう師課程」が39.0%、「あま指師課程」が12.4%となった。

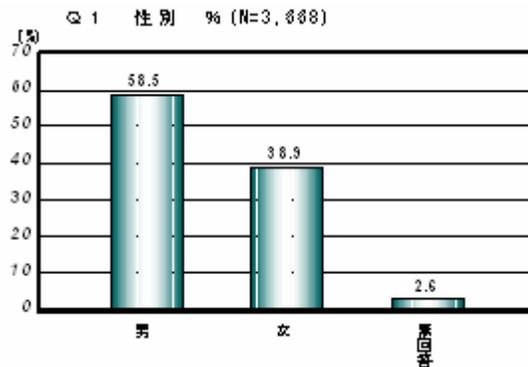
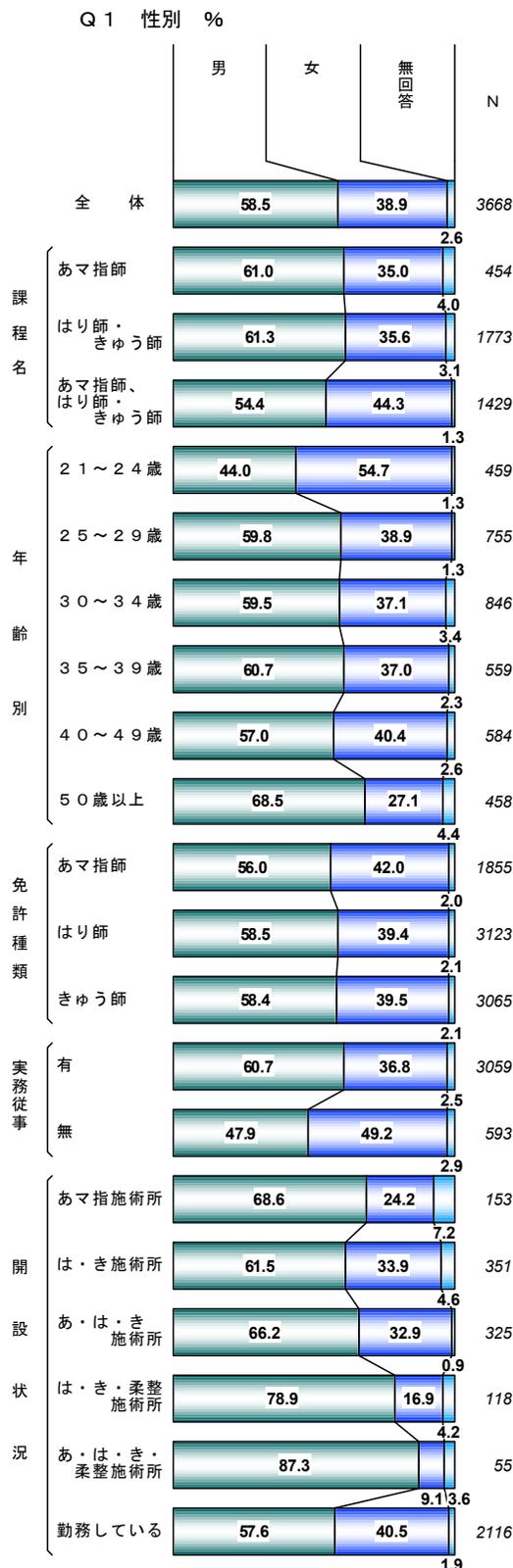
<性別>

男性では「はり師・きゅう師課程」が50.6%と半数を超え、「あま指師、はり師・きゅう師課程」が36.2%、「あま指師課程」が12.9%となった。一方、女性では「あま指師、はり師・きゅう師課程」(44.4%)、「はり師・きゅう師課程」(44.2%)が共に4割台と拮抗しており、「あま指師課程」(11.1%)は男性と同じく1割台となった。

<年齢別>

「はり師・きゅう師課程」は35~39歳(42.0%)に近づく程低く、逆に「あま指師、はり師・きゅう師課程」は35~39歳(42.8%)に近づく程高くなる傾向がみられる。「あま指師課程」は加齢と共に高くなる傾向がややみられる。

(2) 回答者の性別分布



全体では、男性が58.5%、女性が38.9%とほぼ6：4となり、男性比率が6割近い。

<課程名別>

あま指師、はり師・きゅう師課程では、女性比率が44.3%と4割台と比較的高い。

<年齢別>

21～24歳層では、女性比率が54.7%と5割を超えている。一方、50歳以上では、女性比率27.1%と3割弱と低い。

<免許種類別>

いずれの種類でも、男性比率が6割近い。

<実務従事別>

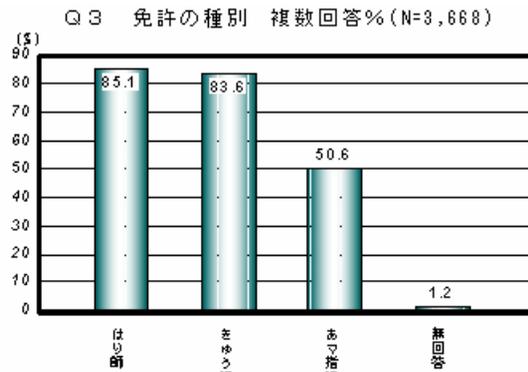
実務従事有層では、男性比率が60.7%と過半数を占めるが、実務従事無層では、男女がほぼ同率となっている。

<開設状況別>

開設している層では、いずれも6割以上が男性で、特に、あ・は・き・き 柔整施術所が87.3%、はり師・きゅう師・き 柔整施術所が78.9%、あま指施術所が68.6%、あ・は・き 施術所が66.2%と高く、はり師・きゅう師 施術所が61.5%となっている。

一方、勤務している層では、男性比率が57.6%、女性比率が40.5%とほぼ6：4となっている。

(3) 免許の種別



全体では、はり師 85.1%と最も多く、ついできゅう師が 83.6%、あま指師が 50.6%となった。

<性別>

女性は男性と比べて、あま指師比率が高く、はり師やきゅう師は男性とそれほど変わらない。

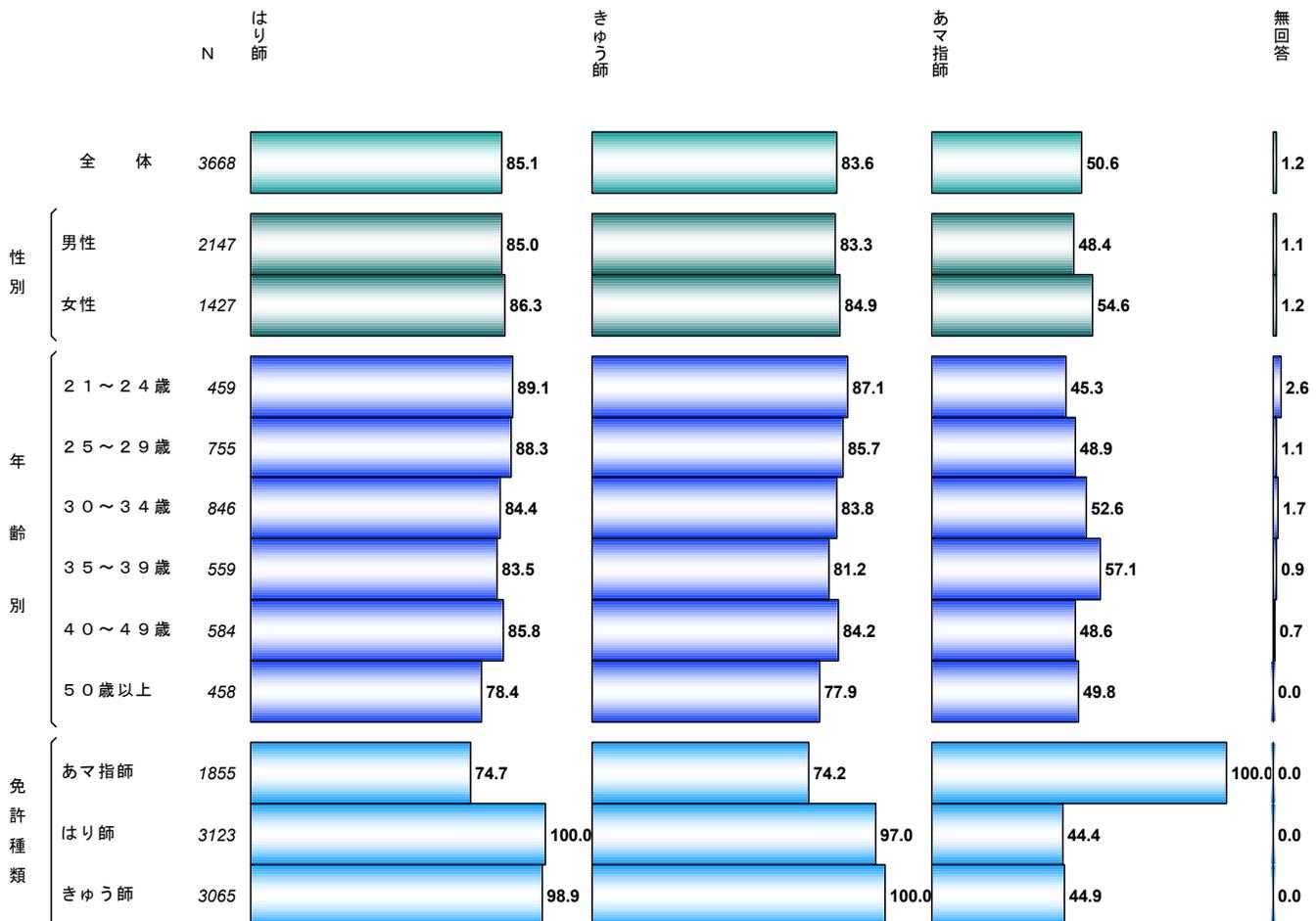
<年齢別>

はり師やきゅう師比率は、若年層ほど高くなる傾向がややみられる。

<免許種類別>

はり師はきゅう師の免許を 97.0%同時保有し、きゅう師ははり師の免許を 98.9%同時保有している。また、あま指師は、はり師の免許を 74.7%同時保有し、きゅう師の免許を 74.2%同時保有している。

Q3 免許の種別 複数回答%

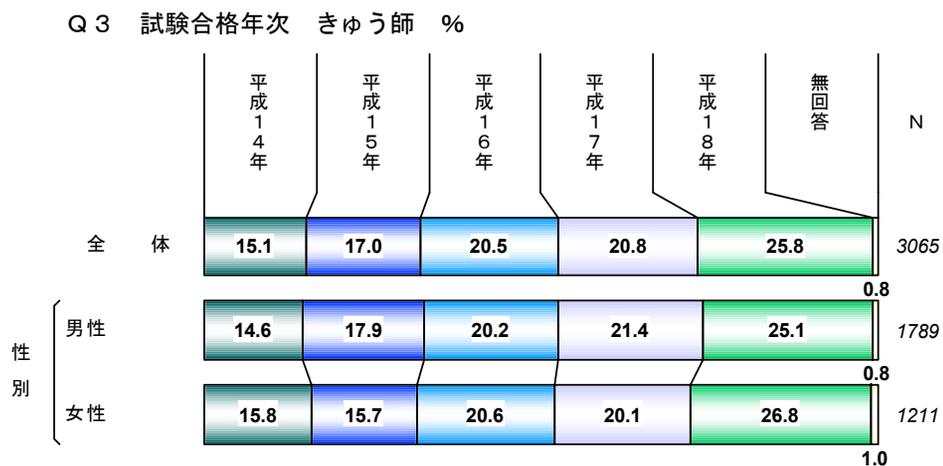
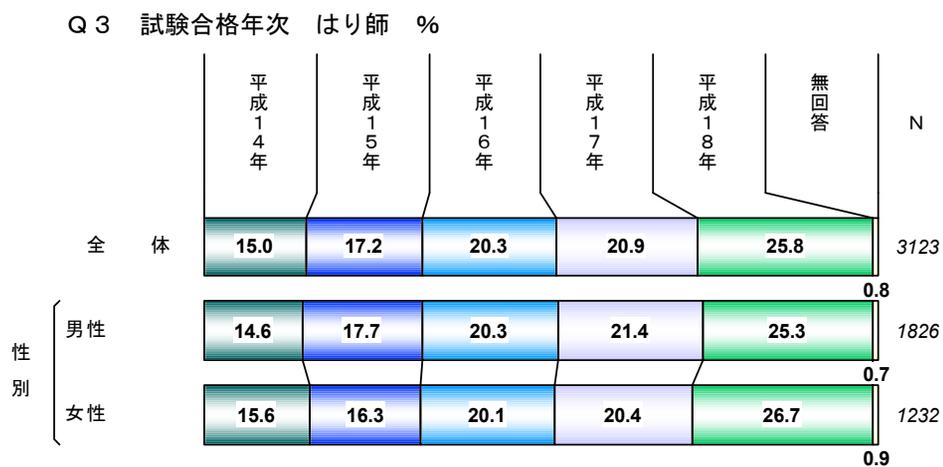
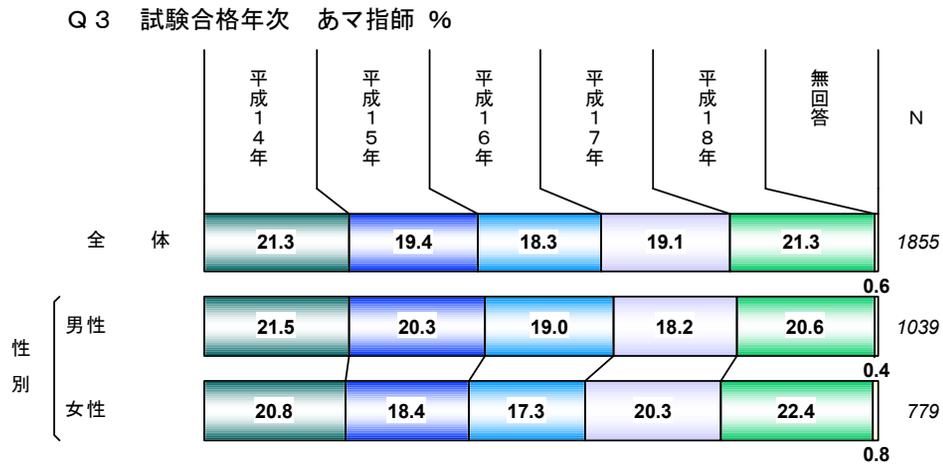


(4) 免許の試験合格年次

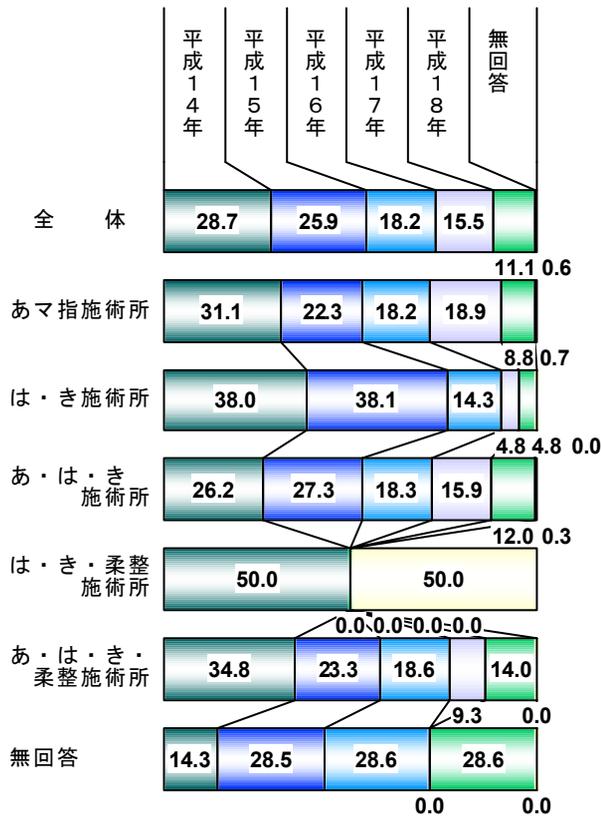
全体では、調査年の占める割合は、アマ指師が21.3%、はり師が25.8%、きゅう師が25.8%となり、はり師、きゅう師が1/4を占めた。

<性別>

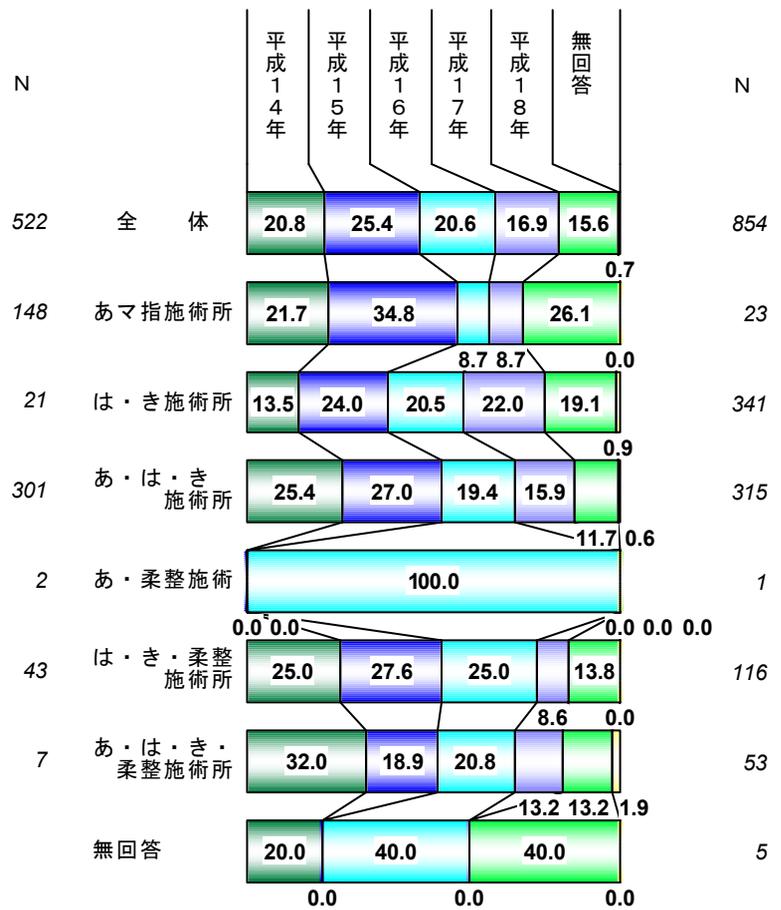
アマ指師、はり師、きゅう師のいずれにおいても、男女共に、試験合格年次別の構成比はそれほど変わらない。



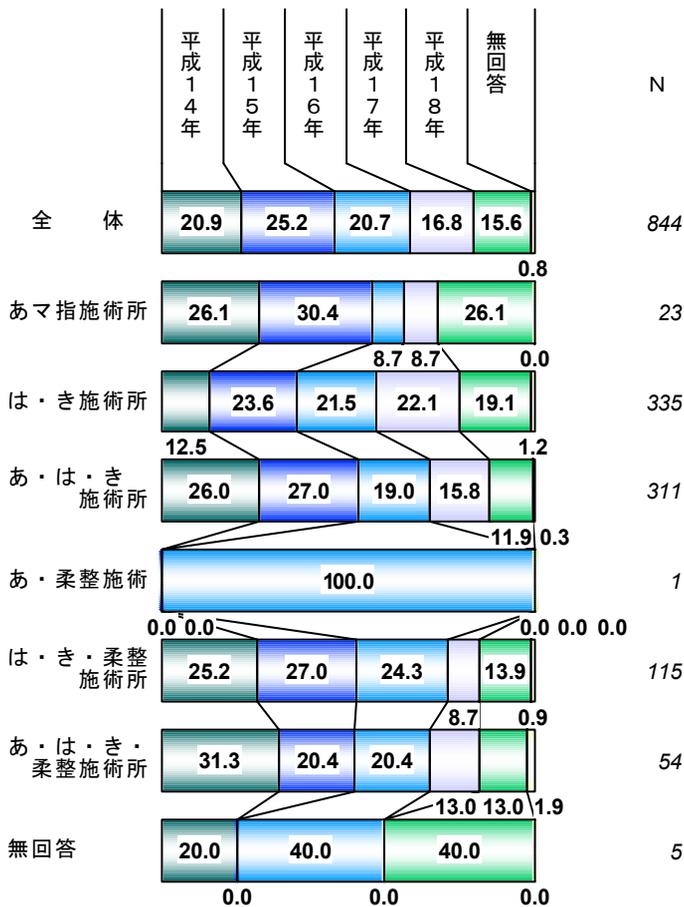
Q 3 開設者の試験合格年次 あま指師 %



Q 3 開設者の試験合格年次 はり師 %

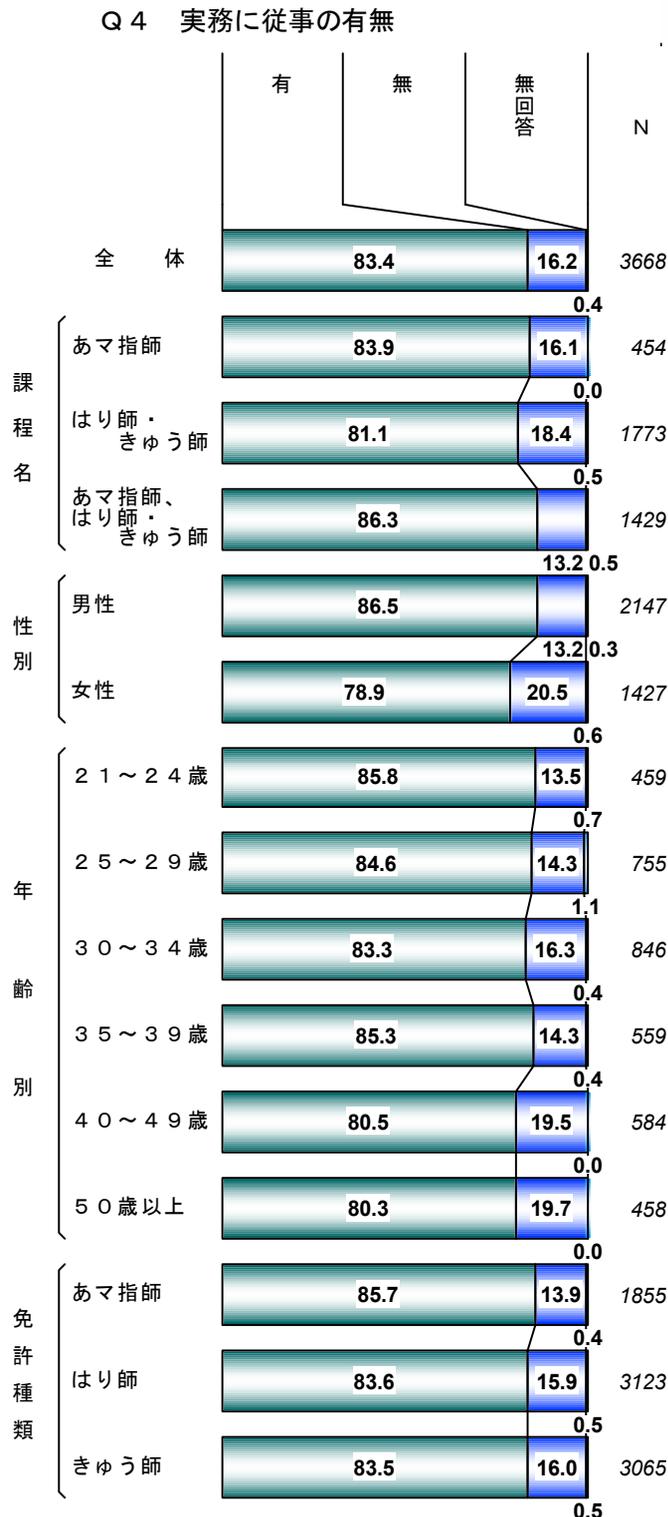
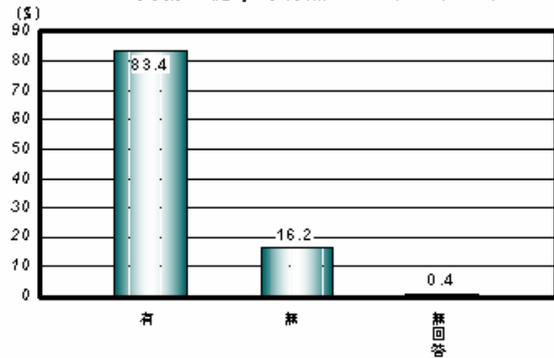


Q 3 開設者の試験合格年次 きゆう師 %



(5) 実務に従事の有無

Q 4 実務に従事の有無 % (N=3,668)



全体では、実務に従事「有」が83.4%と圧倒的に多い。

<課程名別>

あま指師、はり師・きゅう師課程で、「有」が86.3%と最も高い。

<性別>

男性が86.5%に対して、女性が78.9%と「有」が7.6ポイント低い。

<年齢別>

21～24歳層では、「有」が85.8%と最も高い。また、いずれの年齢層でも「有」は8割以上となっている。

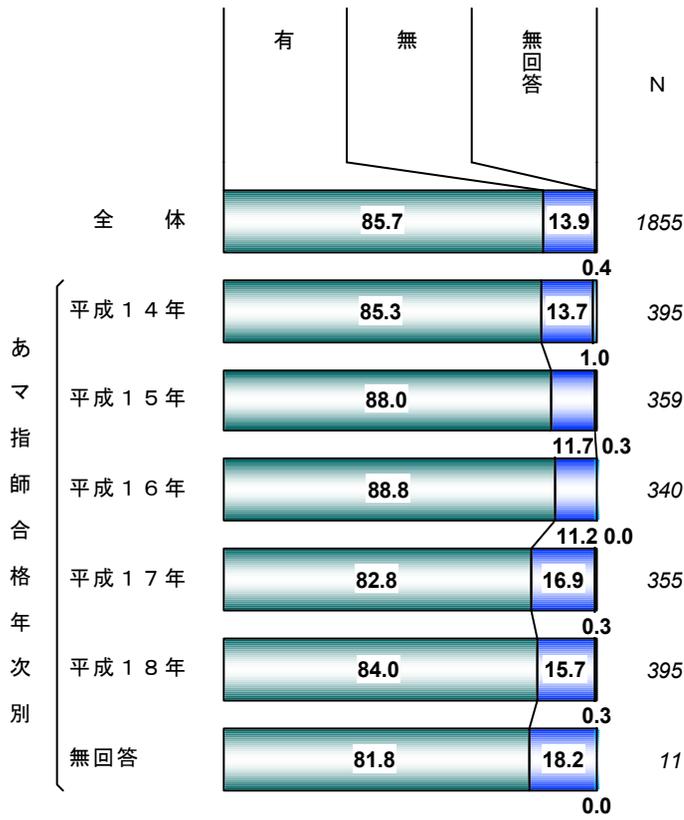
<免許種類別>

いずれの種類でも、8割以上で、あま指師が85.7%と最も高くなっている。

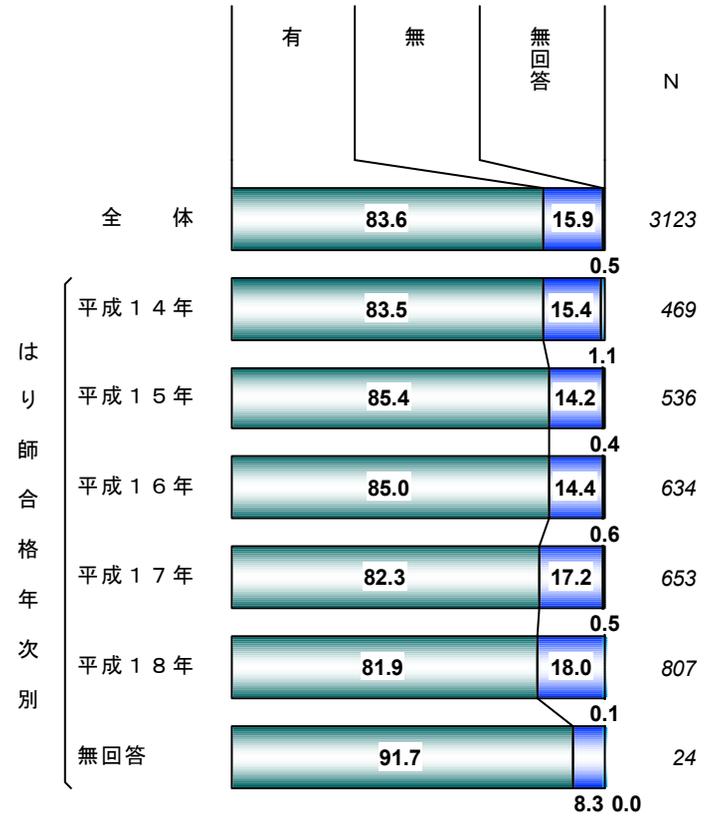
<合格年次別>

あま指師以外で「有」比率は、前回のより、今回が下がっており、平成15年をピークに下降傾向にある。

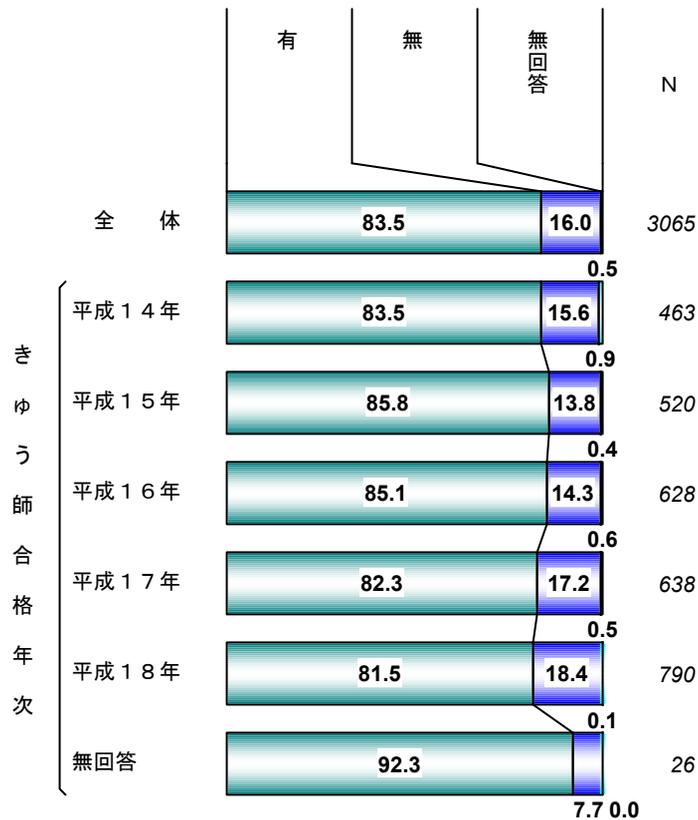
Q 4 実務に従事の有無



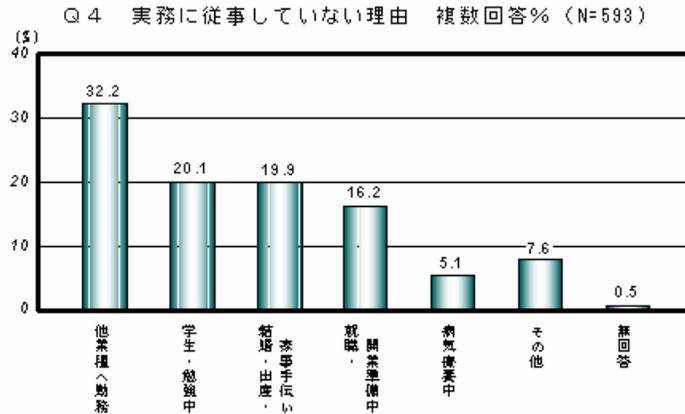
Q 4 実務に従事の有無



Q 4 実務に従事の有無 %

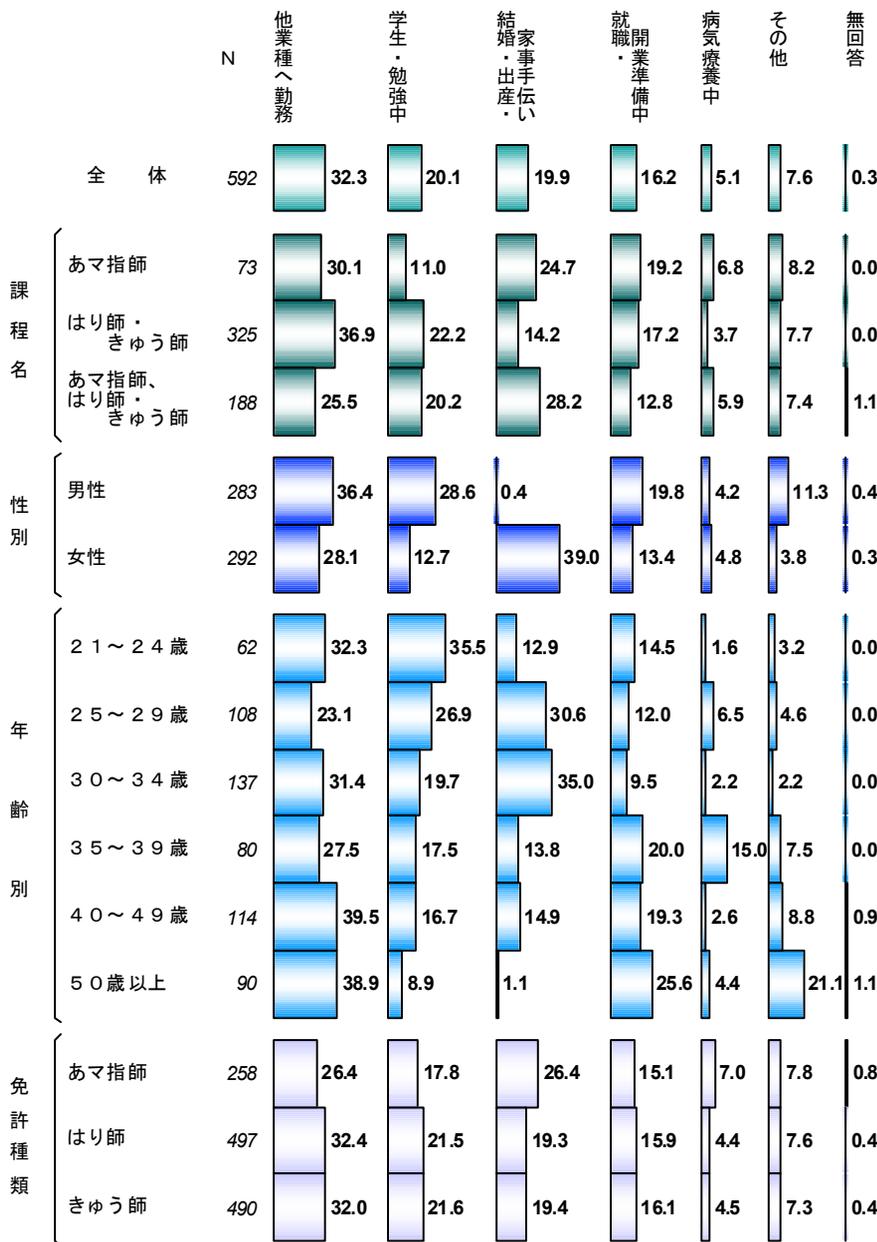


(6) 実務に従事していない理由



全体では、実務に従事していない理由として「他業種へ勤務」が32.3%と最も多い。

Q 4 実務に従事していない理由 複数回答%



<課程名別>

あま指師、はり師・きゆう師課程では、「結婚・出産・家事手伝い」が28.2%と最も高い。

<性別>

男性で「多業種への勤務」が36.4%、女性で「結婚・出産・家事手伝い」が39.0%と最も高い。

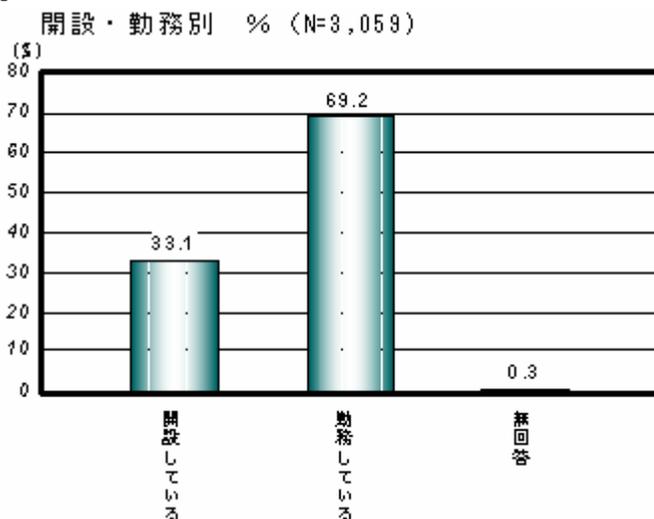
<年齢別>

若年層ほど、「学生・勉強中」が高くなる傾向がみられ、21~24歳層では35.5%と最も高くなっている。

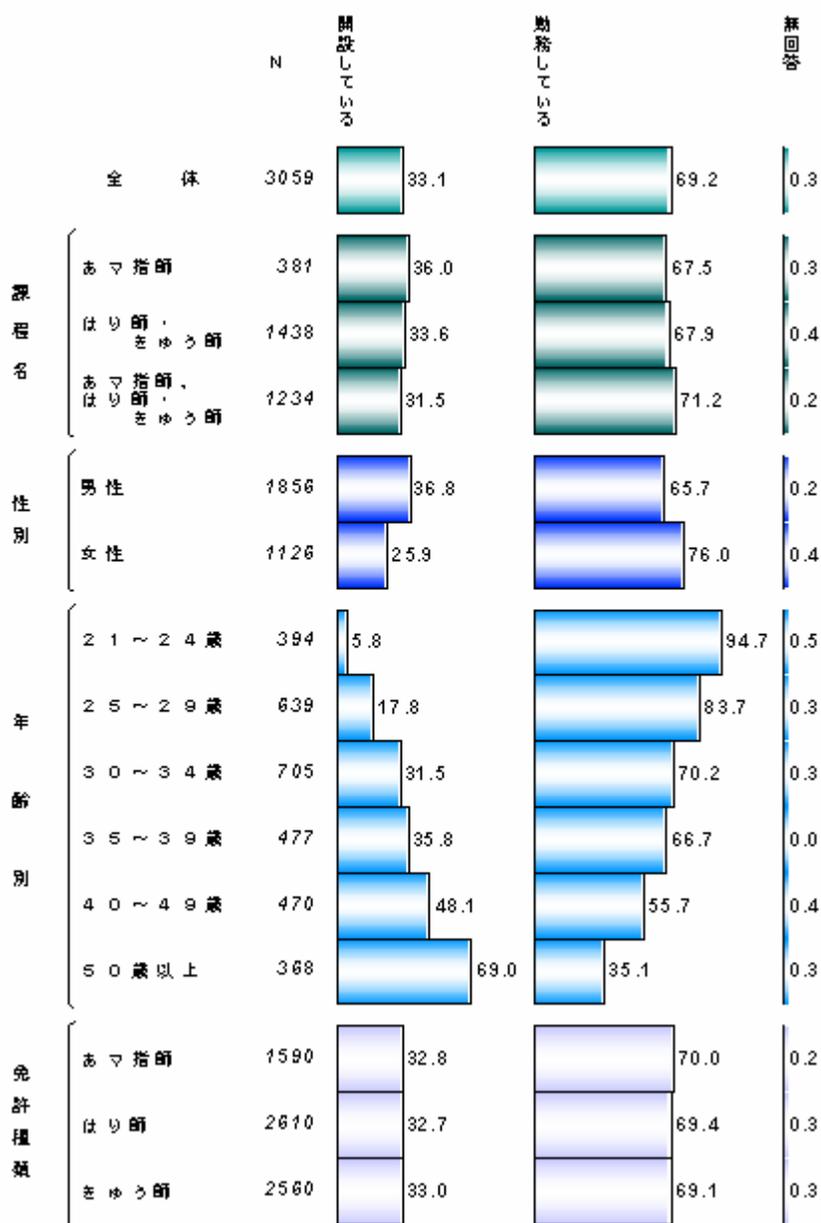
<免許種類別>

あま指師で「結婚・出産・家事手伝い」が高く、「多業種への勤務」と同率で26.4%と高くなっている。

(7) 開設・勤務状況



開設・勤務別 複数回答%



全体では、「開設している」が33.1%、「勤務している」が69.2%となった。

<課程名別>

「開設している」は、あま指師が36.0%と比較的高い。

<性別>

「開設している」は、男性が36.8%、女性が25.9%と男性の方が10.9ポイント高い。

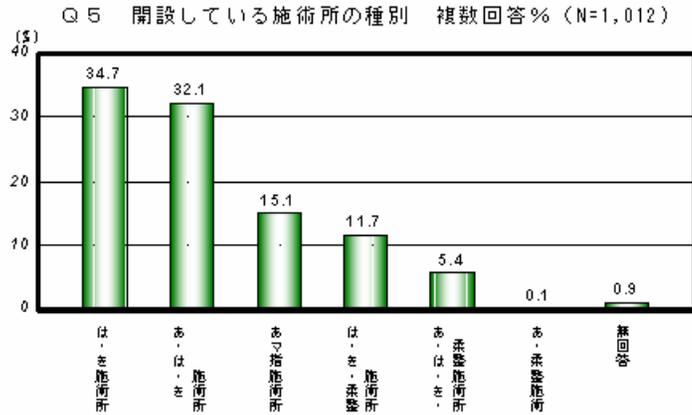
<年齢別>

「開設している」は、加齢と共に高くなり、逆に「勤務している」は加齢と共に低くなる傾向がみられる。

<免許種類別>

いずれの免許種類でも、開設と勤務の割合はほぼ3:6となっている。

(8) 開設している施術所の種別



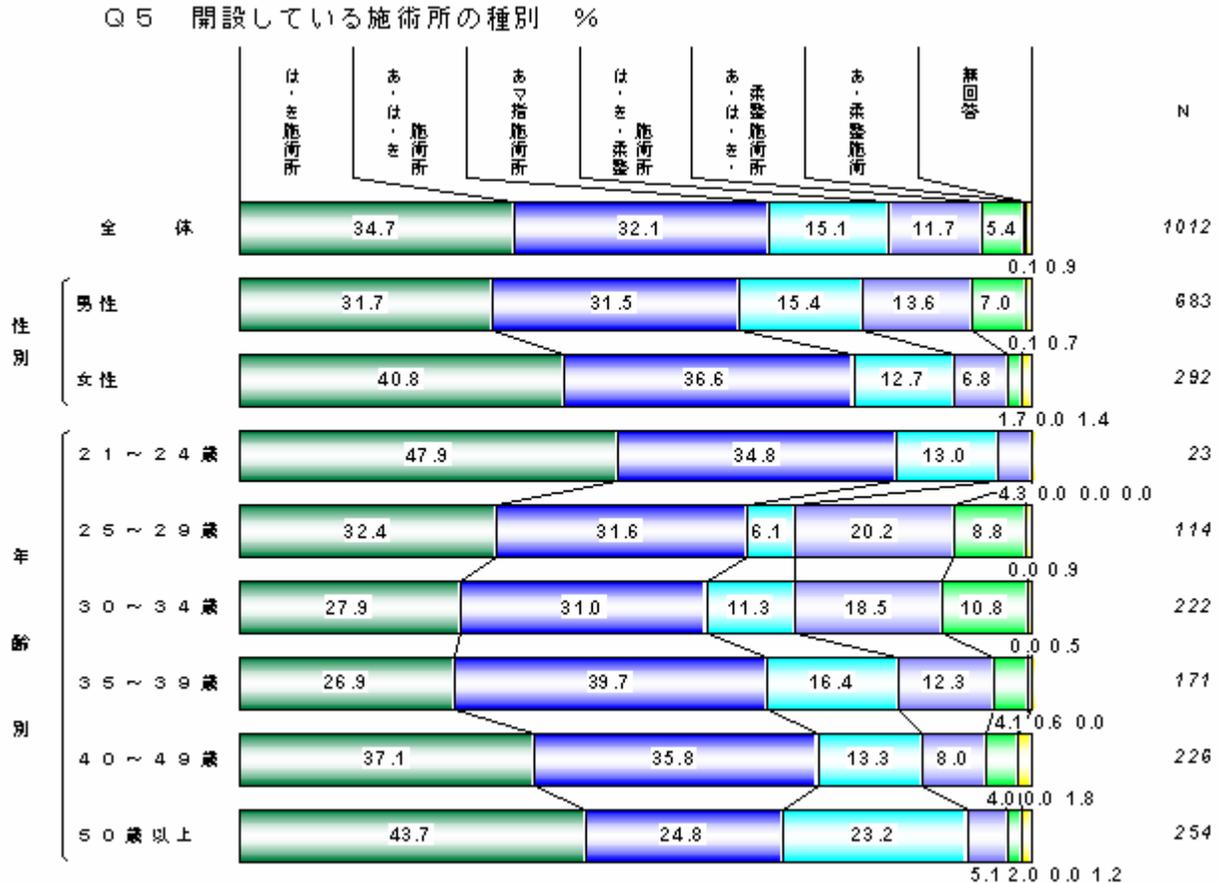
全体では、「は・き施術所」(34.7%)や「あ・は・き施術所」(32.1%)が共に3割台と多く、ついで「あま指施術所」が15.1%、「は・き・柔整施術所」が11.7%などとなった。平成13年と比較して、「は・き施術所」や「は・き・柔整施術所」の構成比がやや増加している。

<性別>

女性は男性と比べて、「は・き施術所」や「あ・は・き施術所」の構成比がかなり高くなっている。

<年齢別>

「は・き施術所」は、35～39歳層で最も低く、それより若年層または加齢層になるほど高くなる傾向がみられる。「あ・は・き施術所」は35～39歳層で39.7%とかなり高い。



(9) 勤務先の種別

全体では、「病院・医院」が21.4%と最も多く、これ以外では「あ・は・き柔整施術所」、「あ・は・き施術所」「は・き・柔整施術所」がいずれも1割台が多い。

<課程名別>

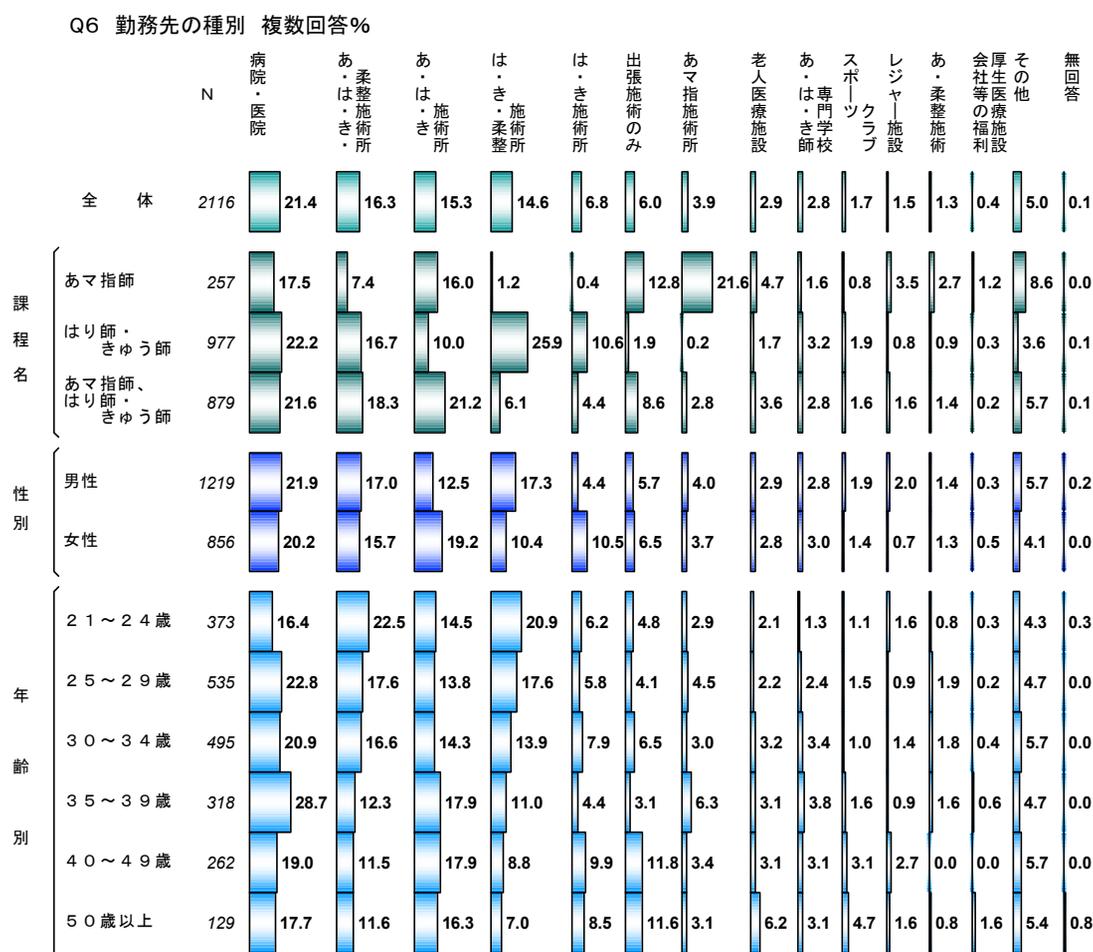
各課程に対応した勤務先で当然高いが、「病院・医院」もそれについて多い。

<性別>

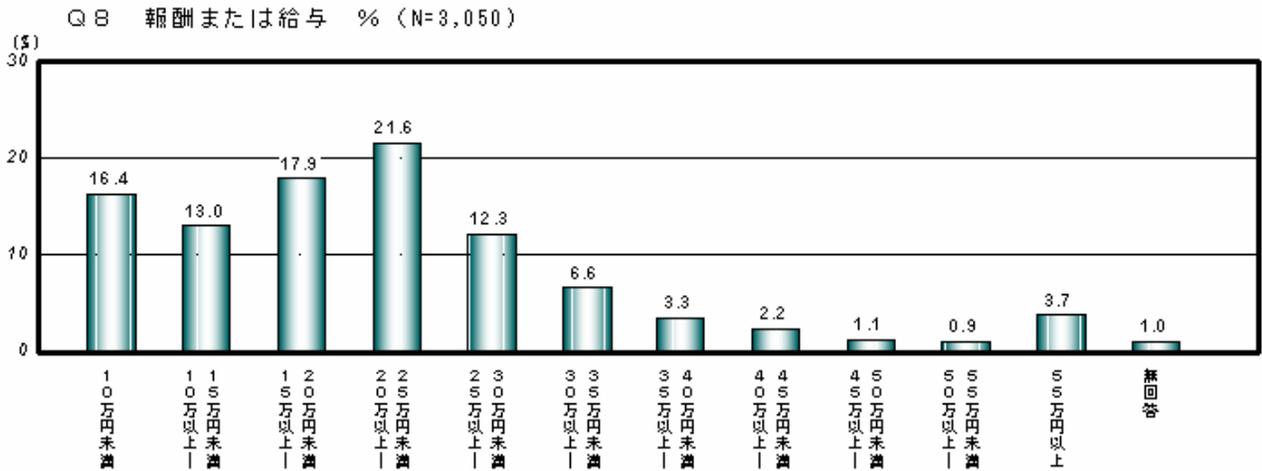
男女共に「病院・医院」が最も多い。

<年齢別>

21～24 歳層以外は、「病院・医院」が最も多い。「あ・は・き・柔整施術所」「は・き柔整施術所」は若年層ほど高くなる傾向がみられる。



(10) 報酬または給与



全体では、報酬または給与平均月額が21.0万円となっている。

<開設・勤務別>

平均月額は、開設している層が22.4万円、勤務している層が20.4万円となっている。

<性別>

平均月額は、男性が22.8万円、女性が18.0万円となっている。

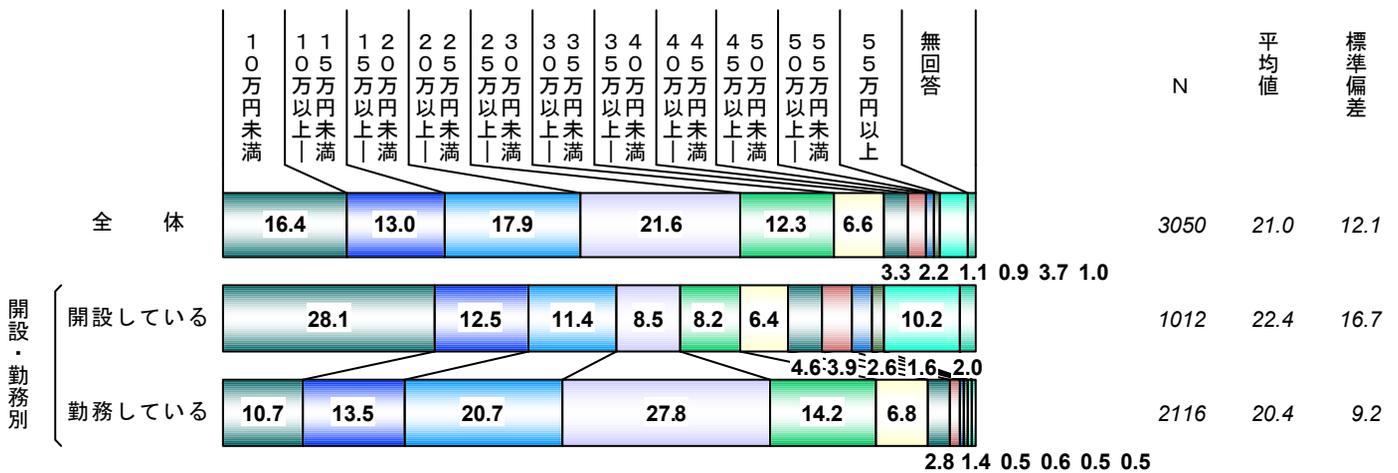
<年齢別>

平均月額は、30～34歳が23.2万円とピークとなっている。「10万円未満」比率は加齢と共に高くなる傾向がみられる。

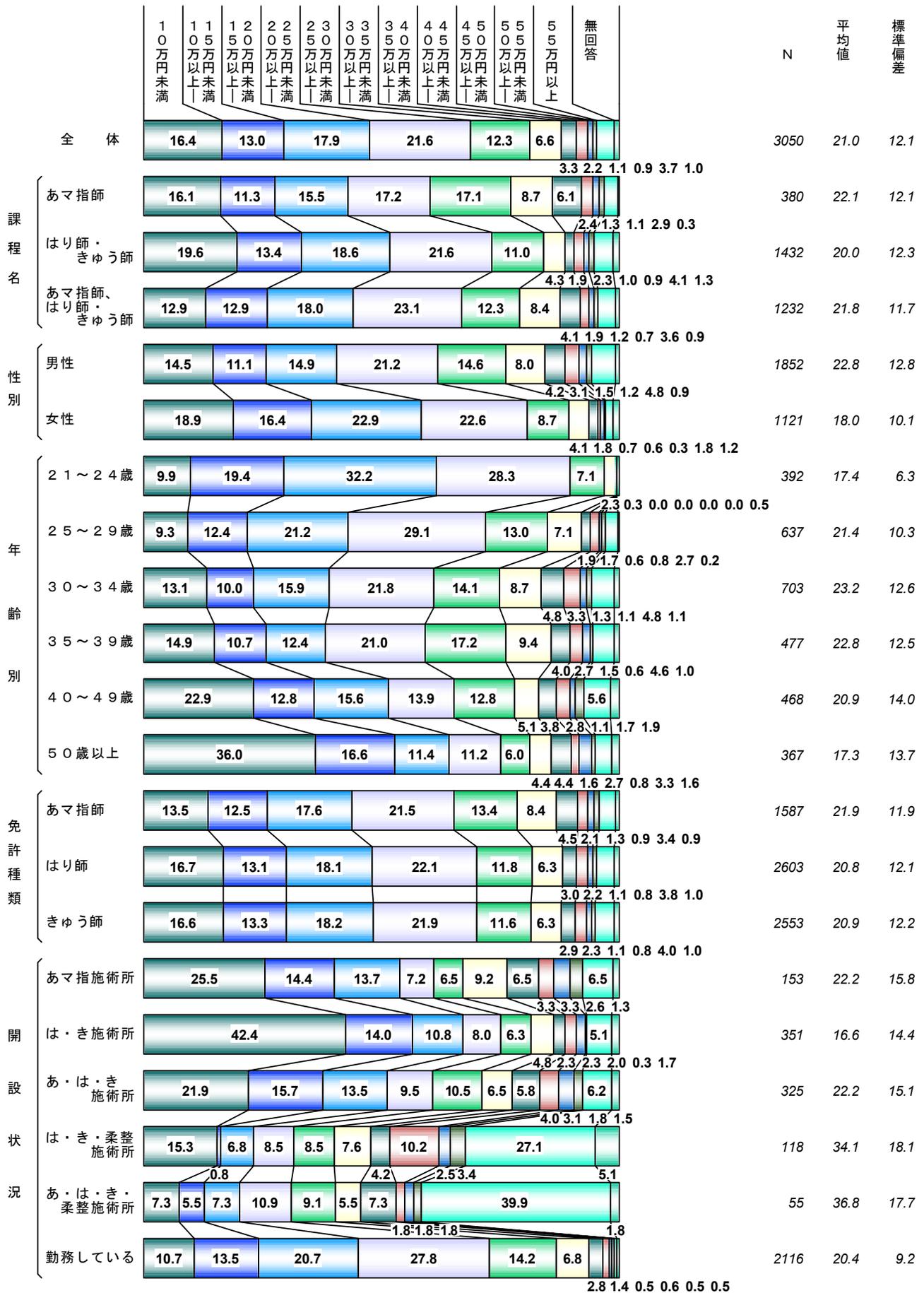
<開設状況別>

平均月額は、あ・は・き・柔整施術所が36.8万円、は・き・柔整施術所が34.1万円と30万円以上の平均値となっている。

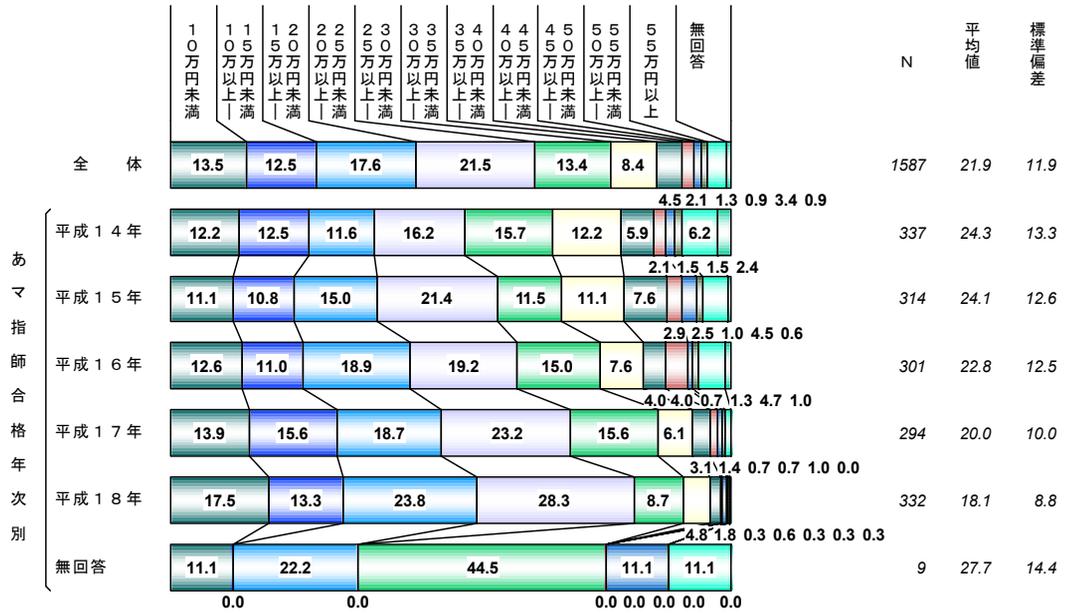
Q 8 報酬または給与 %



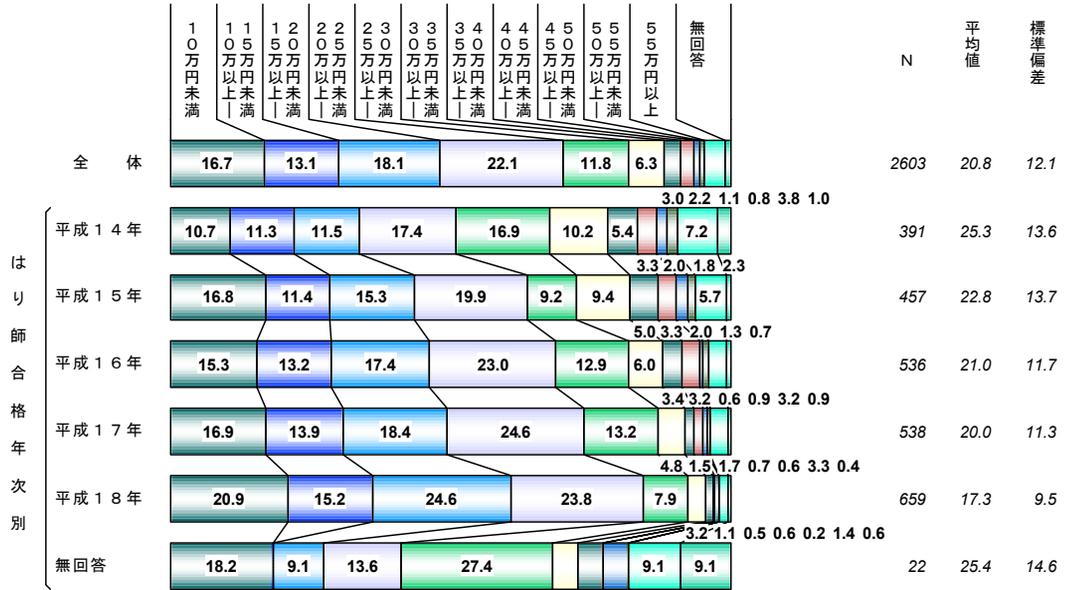
Q8 報酬または給与 %



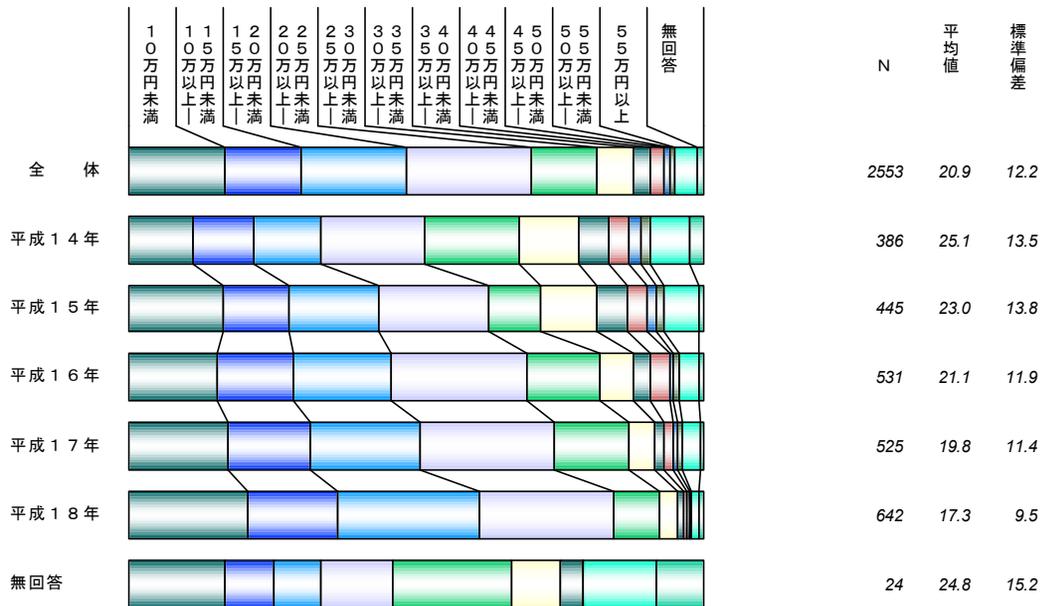
Q8 報酬または給与 %



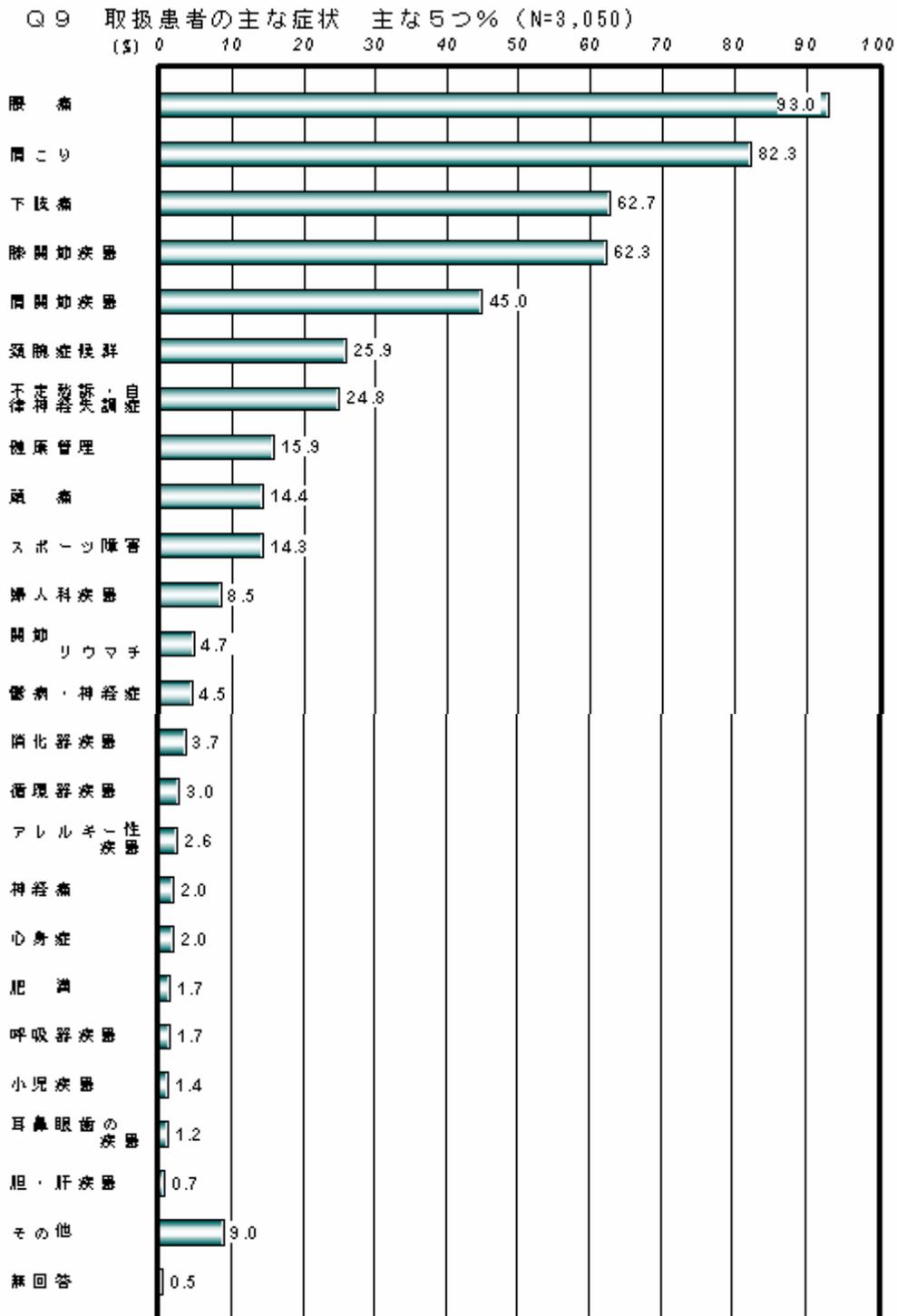
Q8 報酬または給与 %



Q8 報酬または給与 %



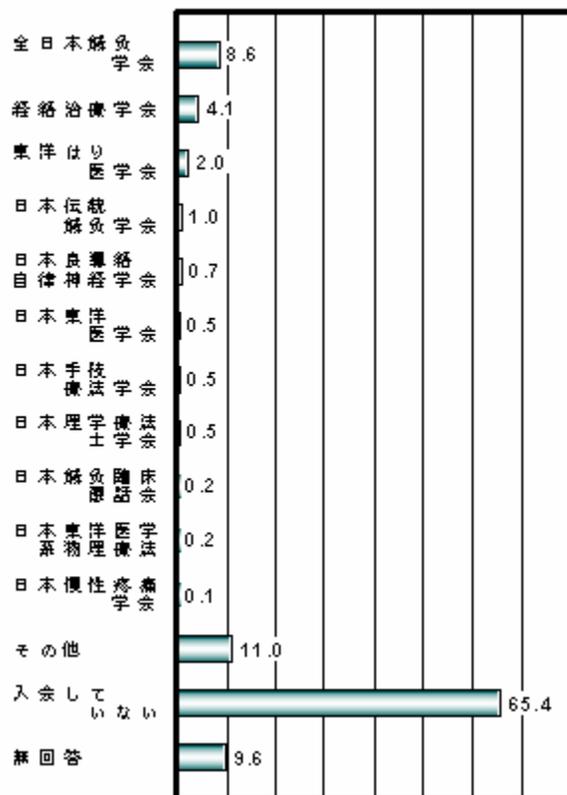
(11) 取扱患者の主な症状



「腰痛」(93.0%)、「肩こり」(82.3%)、「下肢痛」62.7%、「膝関節疾患」(62.3%)が過半数を超えて主な症状となっている。

(12) 学会等の入会状況

Q10 学会等入会状況 複数回答% (N=3,688)
(%) 0 10 20 30 40 50 60 70 80



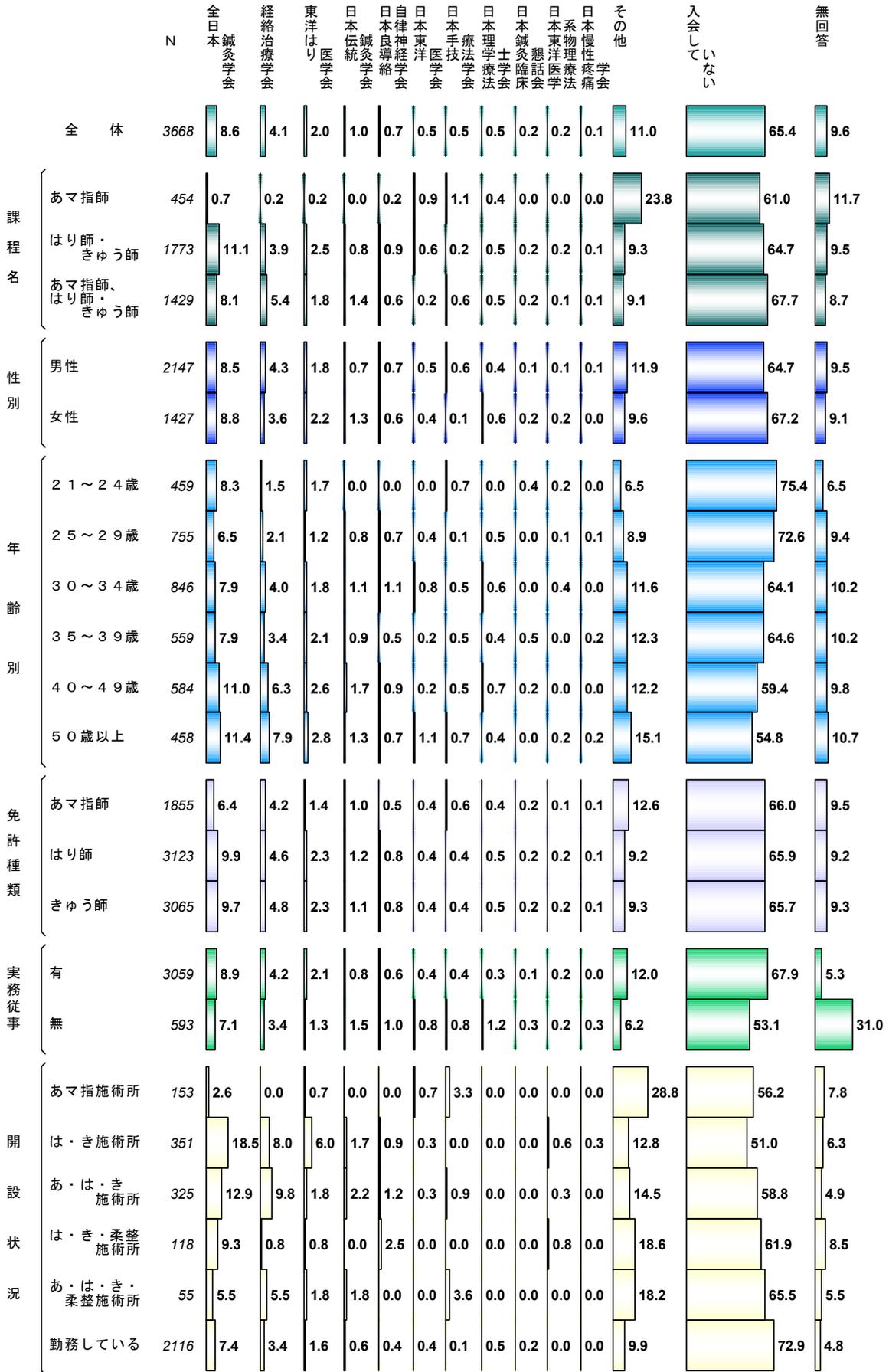
全体としての学会等への入会比率は、25.0%と、全体の4人に1人が何らかに加入している。主なものとしては、「全日本鍼灸学会」(8.6%)、「経絡治療学会」(4.1%)、「東洋はり医学会」(2.0%)が主なものとなっている。

なお、「入会していない」層の主な理由としては、以下ようになった。

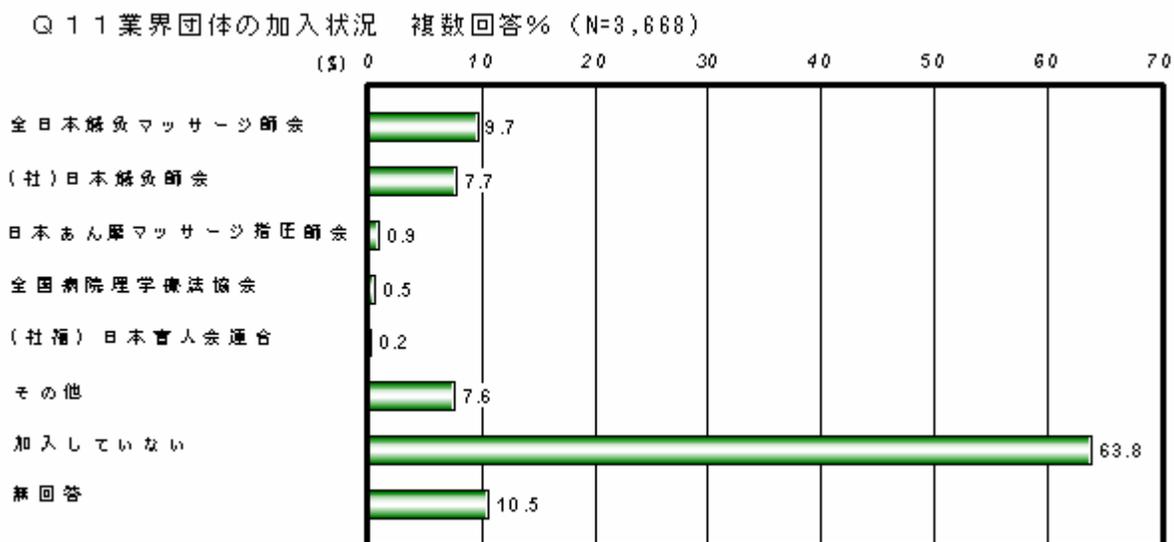
入会していない主な理由 (件数)

Q10-13(上位10位)	
(N=2,399)	
166	会費高い/金銭的余裕無
111	良い所不明、情報少ない
98	必要性ない・メリットない
80	時間的余裕なし/多忙
74	検討中
62	開業したら/開業してない
49	非従事/育児、学生、病気等
31	興味がない
25	入会方法不明
18	機会がない

Q10 学会等入会状況 複数回答%



(13) 業界団体の加入状況



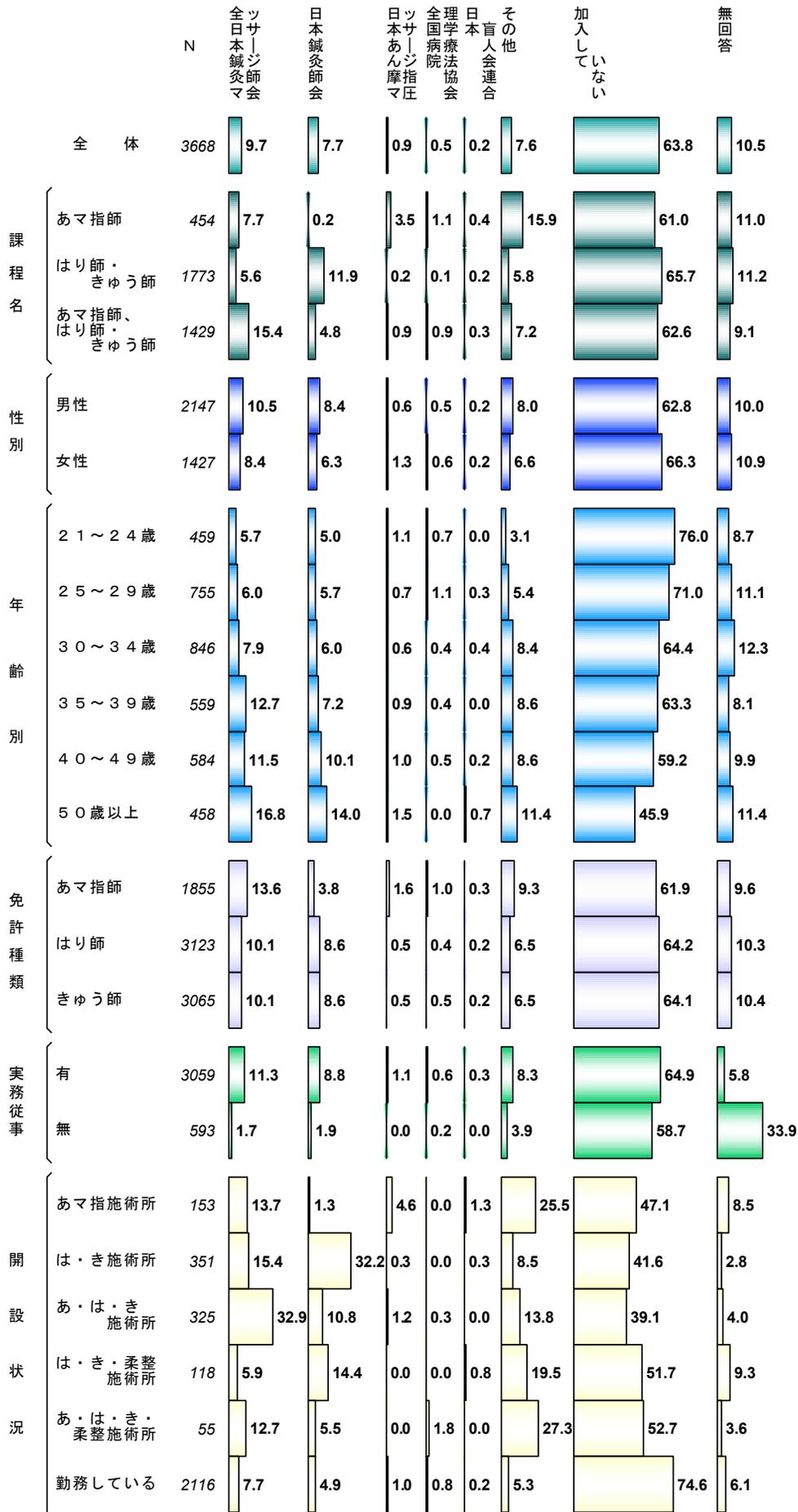
全体として業界団体への加入率は、25.7%となった。
 主なものとしては、「全日本鍼灸マッサージ師会」(9.7%)や「日本鍼灸師会」
 (7.7%)となった。

加入していない層の「加入していない」主な理由としては、以下のようになった。

加入していない主な理由 (件数)

Q11-7	
(N=2,342)	
319	必要性ない/メリットない
266	会費高い/金銭的余裕無
200	良い所不明、情報ない
146	検討中
146	開業したら・勤務
146	非従事/育児、学生、病気
93	時間的余裕なし/多忙
67	機会がない
53	勤務先が入っている
40	入会方法不明

Q 1 1 業界団体の加入状況 複数回答%



第3回「あん摩マッサージ指圧師、はり師及び
きゅう師免許取得者の進路状況アンケート調査」
(平成18年10月実施)
報告書(要約版)

社団法人 東洋療法学校協会
事務局 〒105-0013 東京都港区浜松町 1-12-9
第一長谷川ビル 4F
電 話 東京 (03) 3432-0258
FAX 東京 (03) 3432-0263
<http://www.toyoryoho.or.jp/>